

心の教育推進の手引き



子どもたちに豊かな心を育むには、子どもたちが心を開き、心を磨き、心を伝え合うことができる教育活動を充実させることが大切です。家庭や地域と連携しながら、全ての教育活動を通じて心の教育を推進し、子どもたちの心の成長をしっかりと支援していきましょう。

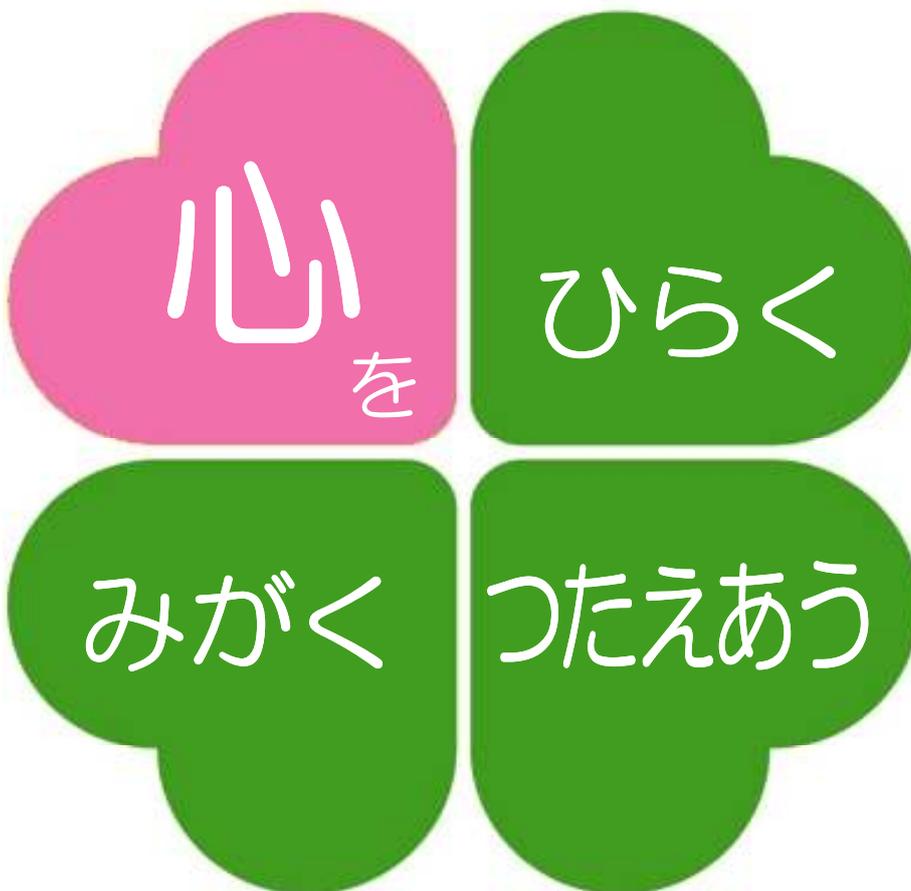
一人ひとりの夢の実現に向けて

知・徳・体の調和のとれた生きる力を育てよう

人間形成の基礎・基本の重視

広い心 温かい心 燃える心 学ぶ力 創る力 生き抜く力

すべての教育活動で



家庭や地域ととも

平成24年1月
山口県教育委員会



心をひらく



子どもたちが心を開き、自分の思いを表現できるようにするには、子どもたちが発する心のサインである言動や様子の変化を見逃さず、学校全体で子どもたちの心をしっかり受け止める体制をつくるのが大切です。

子どもたちの変化をしっかりと見よう！

★ 子どもたちが発する心のサインを受け止めよう！

- 態度や行動面の変化
 - イライラして、落ち着きがない
 - 目つきなどの表情がよくない
 - 言葉遣いが乱れる
 - 学校に必要な物を持って来る
 - 理由が不明確な遅刻や早退、欠席がある
 - 頭痛や腹痛を訴え、保健室によく行く
 - 服装や髪が乱れる など

- 友人関係の変化
 - 友達とのトラブル、けんかが多い
 - 休み時間などに一人でいることが多い
 - 遊びのグループに変化が見られる など
- 学級・授業中の態度
 - 話を聞かないで手遊び、私語が多い
 - 授業に積極的に取り組まない
 - 忘れ物が多い など



★ 子どもたちのプラス面を見つける努力をしよう！

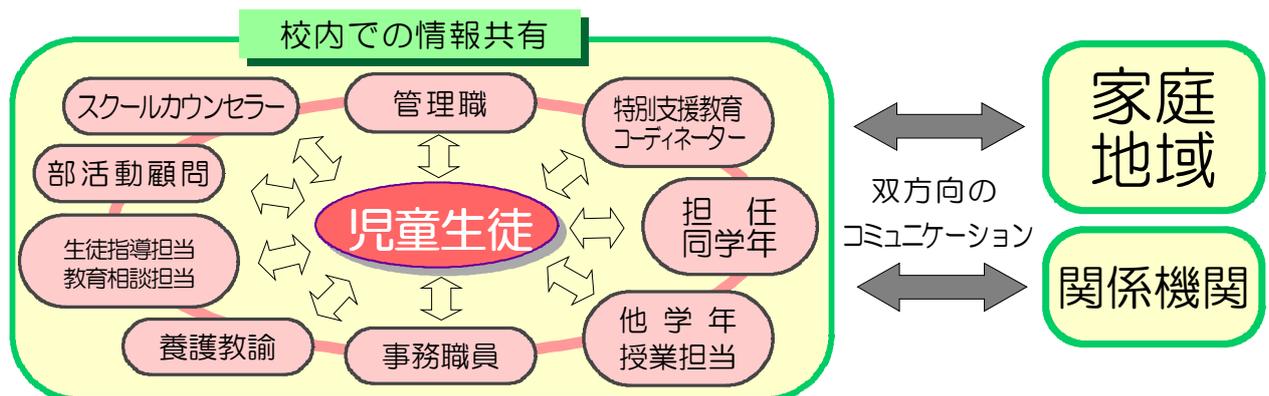


- ・日頃から子どもたちのよさに気付こうと意識することが大切です
- ・子どもたちの日々の成長やよさを積極的に認めるようにしましょう
- ・ほめるときは、どんなところがよかったのか具体的にほめることが大切です
- ・結果だけでなく、子どもたちのがんばりの過程をしっかりと見るようにしましょう



多くのかかわりで子どもたちの心に寄り添おう！

★ 子どもたちを多角的・多面的に理解しよう！



定期的に子どもたちの実態把握をしよう！

1～2週間のできるだけ短い間隔で、子どもたちに生活アンケートを実施することにより、次のような効果が期待できます。 【周南市教育委員会の取組事例】

- ① 現在の子どもたちの状況が把握できます。
- ② 子どもたち自身が、常に自他を意識した生活を送ることができます。
- ③ 教職員が、子どもたちの日常の行動を注意深く観察する視点をもてます。
- ④ 子どもたちのよさを発見でき、ほめる材料が増えます。
- ⑤ 相談機能が充実し、子どもたちの悩みを積極的に受け止めることができます。

一週間をふりかえりましょう！

(小学校高学年の例)

- ① 学校は、楽しいですか。
はい 楽しいときと楽しくないときがある いいえ
- ② 友達と、楽しく過ごせていますか。
はい 楽しいときと楽しくないときがある いいえ
- ③ がんばっていた友達や「いいなあ」と思うようなことをしていた友達を見つけましたか。

はい → だれのどんなところですか？
いいえ

- ④ 悩んだり、いやな思いをしたりしたことがありましたか。
あった → 今の状況は？ → (なくなった 気にしていない まだ悩んでいる)
なかった
- ⑤ 友達の中に、悩んだり、いやな思いをしたりしている人はいましたか。
いた いなかった
- ⑥ 家では、楽しく過ごしていますか。
はい 楽しいときと楽しくないときがある いいえ
- ⑦ 先生に、相談したいことがありますか。
ある ない
- ⑧ 来週、がんばりたいことは何ですか。



あらゆる場面が教育相談のチャンス！

休み時間



定期的な教育相談だけでなく、子どもたちが何か話しかけてきたときや子どもたちの変化に気付いたときがチャンスです。

毎日の子どもたちとのかかわりを大切にしましょう。短いやり取りでも、きっと子どもたちの心に響きます。

部活動



授業中



給食の時間

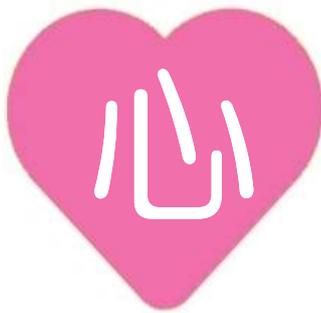


登下校時



掃除時間





を みがく



子どもたちが自分の言葉や行動を振り返るとともに、他者とのかわりについて考える中で、自ら心を磨き、友達と共に心を磨き合うことができるよう、全ての教職員が、学校の教育活動全体を通じて心の教育に取り組むことが重要です。

自分や相手を大切にすることを育てよう！

相手を思いやる心を育てる基本は相手の存在を認めることです。思いやりのない言葉かけ（呼び捨て等）や態度をされると、自分のことを認められていないような感じがします。

★相手を思いやる言葉遣いをしよう！

- ・お互いに、相手のことを大切にしたい呼び方をしましょう。
- ・先生も子どもたちも、ていねいな言葉遣いを心がけましょう。



★相手の思いや考えを聞く態度を育てよう！

- ・授業の中や生活の場において、相手を見て聞くことができるよう継続的に指導しましょう。
- ・人の話をしっかり聞くことが、互いの考えや立場を尊重し、相手を思いやる心の基本です。

道徳の時間をより充実したものにしよう！

子どもたちが、自分の考えをしっかりと表現し、話し合い活動で考えを深めることができるよう、道徳教育の要である道徳の時間を充実させることが大切です。

★道徳の時間の指導方法を工夫しよう！

- ・体験を想起して話し合いをすることができるように、動作化や役割演技を取り入れましょう。
- ・AFPY等のエクササイズや歌、映像などを効果的に活用してみましょう。

★ゲストティーチャーを招いて話を聞こう！

- ・地域のゲストティーチャーの経験に基づいた話は、子どもたちの心に響きます。
- ・校長や教頭、養護教諭など、担任以外の先生の協力を得ることも効果的です。

学級活動・ホームルーム活動を充実させよう！

子どもたちが自分の思いを自由に発言し合える支持的風土を育てるとともに、学級活動やホームルーム活動、児童会活動、生徒会活動を充実させることが大切です。

★日頃から安心して発言できる雰囲気をつくろう！

- ・学級での出来事など、身近な話題について話し合う機会をもちましょう。
- ・人の発表や失敗を受容的に受け止める学級の雰囲気をつくりましょう。

★自発的、自治的な活動を重視しよう！

- ・子どもたちの願いや学校生活上の課題を取り上げましょう。
- ・子どもたち自身に、解決に向けた活動を計画させましょう。



自分の将来について考える場を設定しよう！

キャリア教育の視点をもって各教科の活動を行い、取組を充実させるとともに、子どもたちが自分の将来に向けて考える場をもつことが大切です。

★教育活動をキャリア教育の視点で見直そう！

- ・各教育活動で、どのような力を育てるのかを明確にしましょう。
- ・各教科に含まれるキャリア教育の内容を整理してみましょう。
- ・社会のルールやマナーに関する指導を充実させましょう。

★将来の夢や目標を声に出してみよう！

- ・子どもたちが将来の夢や目標をもつことは、意欲につながります。
- ・「(例) 夢ノート」を活用するなどして、将来の夢や目標を文や絵に表し、声に出して発表し合うことも効果的です。

将来の夢
〇〇中一年 山口花子
将来、看護師になりたいです
一学期の目標
授業をよく聞いて、ノートを
しっかりと取ることにしよう

(例) 夢ノート

日々の読書活動を充実させよう！

読書活動は、子どもたちの言語活動を充実させるだけでなく、人と人とをつなぐコミュニケーションの活性化や生き方にも影響を与える可能性をもっています。また、朝読書により、子どもたちがゆったりとした気持ちで落ち着いた学校生活をスタートさせることができます。

★本でつながるコミュニケーションを活性化させよう！

- ・学校図書館や学級文庫の選書を工夫し、読書意欲を高める環境を整備しましょう。
- ・読書会、読み聞かせ、選書会など、本に親しむ活動の充実を図りましょう。
- ・覚えた詩や名文などを発表し合う活動でコミュニケーションが広がります。



★読書の足跡を継続的に記録しよう！

- ・ページ数や冊数など一人ひとりに応じた目標値を設定することも意欲付けにつながります。
- ・読書カードに簡単な感想欄を設け、学級で紹介し合うなどの活動を工夫してみましょう。

障害のある子どもたちと共に学ぶ機会を設けよう！

障害のある子どもと障害のない子どもが共に活動する交流及び共同学習は、子どもたちが互いに助け合い、支え合って生きていく大切さを学ぶ場であるとともに、社会性や豊かな人間性を育む大切な活動です。

★子どもの実態やニーズに応じた工夫をしよう！

- ・障害のある子どもの長所や興味・関心を生かした活動を考えましょう。
- ・計画の段階から子どもたちの発想を生かすようにしましょう。
- ・手紙や電子メール、作品の交換を行うなど、交流を深める方法を工夫しましょう。
- ・日常の教育活動の中で、「お互いの特性や個性を理解し認め合うこと」「障害とは何かについて考える機会をもつこと」に取り組むなど、事前・事後の学習を大切にしましょう。





をつたえあう



AFPY等を活用して豊かな人間関係づくりに取り組み、友達とかかわる中で自分たちの思いを伝え合う活動を充実させることが大切です。

AFPYのアクティビティの紹介、体験活動の充実、日常での心のふれあいにつながる活動の紹介など、子どもたちが心を伝え合う活動のヒントを紹介します。

豊かな人間関係づくりに取り組もう！

★お互いの思いを共有することから始めよう！

「みんなと仲良くしたいな。」「笑顔がいっぱいの学級っていいな。」「感動いっぱい運動会にしたいな。」子どもたちは、たくさんの思いをもって過ごしています。お互いの思いを尊重し、共有することが人間関係づくりの第一歩です。

【活動例～「ピーイング」～】（準備物：大判用紙・マジック）

- ①手形の中に一人ひとりの目標を書く
 - ②お互いの考えを伝えた後、みんなの目標を書く
 - ③様々な活動（ゲーム・行事など）を行う
 - ④活動後、振り返りを行い、気づきを書き込む
- ※以下、③④を繰り返す

「一人ひとりの目標」を書いてみましょう



「みんなの目標」を書いてみましょう

ポイント②

空いているところには「活動後の気づき」「次の活動でチャレンジしてみたいこと」などを書き込むとよいでしょう。

ポイント①

手形だけでなく、活動にあわせて形を作ってみましょう。（例：運動会ならバトンの絵）

協力して助け合うクラス

【目標は具体的な方がよい！】

先生：「どんな目標にしましたか？」

子ども：「『助け合う』ということです。」

先生：「助け合っている時って、どんな時だと思いますか？」

子ども：「お互いに声を掛け合っているような時です。」

先生：「どんな声を掛け合っているんですか？」

子ども：「『がんばれ』や『ドンマイ』です。」

先生：「じゃあ、あなたの目標を、『がんばれなどの声かけをする』のように、より具体的なものにしたらどうですか？」・・・

ポイント③

振り返りを深めるために、目標はより具体的なものがよいでしょう。

※ AFPY（アスピー：Adventure Friendship Program in Yamaguchi）とは、他者とかかわり合う活動を通して個人の成長を図り、豊かな人間関係を築くための考え方や行動の在り方を学び合う、山口県独自の体験学習法です。

体験活動で豊かなふれあいを充実させよう！

子どもたちに豊かな人間性や社会性などを育むためには、様々な体験活動を通して、地域の人々とのかかわりや自然、伝統文化等との豊かなふれあいを充実させることが大切です。

★体験活動充実の視点

- ◇ 子どもたちの自主性を生かしましょう。
- ◇ 体験活動の振り返りを充実させましょう。
- ◇ 事前・事後の指導を工夫しましょう。
- ◇ 教師間の共通理解、家庭や地域、関係機関との連携を図りましょう。



★豊かな心を育む体験活動の実践例



【乳幼児とのふれあい】

【実践事例①】様々な人との交流活動（幼児、高齢者など） 〈活動の視点〉

- ・ 異年齢の交流、思いやりの心、命の大切さ など
- 〈取組のポイント〉
- ・ 相手に配慮することができるように事前指導を行う
- ・ 命の大切さを認識するための気付きを大切にする
- ・ 自分自身の生き方を振り返る場を設定する

【実践事例②】学校周辺や通学路の清掃活動 〈活動の視点〉

- ・ 地域社会とのつながりの深化、環境保護に対する実践意欲の喚起、公德心の向上 など
- 〈取組のポイント〉
- ・ 事前に活動の目的や内容について説明し、意識付けを行う
- ・ 地域社会とのつながりを意識する場や活動を設定する
- ・ 活動後に振り返りの場を設定する



【感謝の気持ちで清掃活動】



【日本の文化を体験するお茶会】

【実践事例③】地域の伝統・文化にふれる体験活動 〈活動の視点〉

- ・ 地域や自国の文化のよさ、文化を尊重する態度 など
- 〈取組のポイント〉
- ・ 体験前の基礎知識を得るために、調べる場を設定する
- ・ 伝統芸能などを体験する場を設定する
- ・ 文化活動に取り組む地域人材の素晴らしさにふれる
※「これが私の故里だ～山口県伝統・文化教材集～」を参照

★日常での心のふれあい活動

児童会・生徒会活動の一つとして、また、学級や学年活動として、子どもたちに投げかけてみましょう！



【投げかけの例】

- ◇ トイレのスリッパをそろえよう
- ◇ 廊下歩行でゆずり合おう
- ◇ 気持ちのよいあいさつをしよう
- ◇ 一日一つ親切な行いをしよう
- ◇ 校内のゴミ拾いを心がけよう
- ◇ 進んで花の水やりをしよう



子どもたちの主体性を活かした活動に取り組もう！

★具体的行動目標(チャレンジ目標)を立てて実践しよう！

1 児童会・生徒会チャレンジ目標「気持ちのよいあいさつをしよう」

＜課題＞ 積極的にあいさつをする子どもを増やす
あいさつをされたら必ず返すようにする など

＜取組例＞

- ①児童会・生徒会を中心とした朝のあいさつ運動を実施
 - ②教職員も校門・街頭等で、あいさつ運動に参加
 - ③保護者やスクールガードは、自宅付近の通学路に立ち、登校する全ての子どもたちに対してあいさつ運動を展開
- 子どもたちは、学校に着くまで多くの人とさわやかなあいさつを交わしながら、見守られて登校することができる



朝のあいさつ運動

2 児童会・生徒会チャレンジ目標「チャイム前着席をしよう」

＜課題＞ 時計を見て行動する習慣を身に付ける
事前に授業の準備をする習慣を身に付ける など

＜取組例＞

- ①学習委員会等を中心としたチャイム前着席を実施
 - ②全教員が、チャイム前に教室入室
 - ③学習委員等が教室の前に出て黙想の指示
 - ④黙想後に、始業のあいさつをして授業開始
- 落ち着いた雰囲気の中で授業を開始することができる
○ゆとりをもって教科書やノートを準備することができる



チャイム前着席・黙想

★チャレンジ目標を学校評価に位置付けよう！

チャレンジ目標は、子どもたちの具体的な行動目標であり、子どもたちは目標達成に向けた日々の取組を通して成長していきます。このチャレンジ目標を学校評価の重点課題として位置付け、適切に評価し、振り返ることにより、教育効果を高めていきましょう。

＜学校評価書の例＞

3 本年度重点を置いてめざす成果・特色、取り組むべき課題
<ul style="list-style-type: none"> ○生徒、保護者、地域、教職員相互のよりよい人間関係をつくる。 ○分かる授業、楽しい授業を展開する。 ○小中連携教育を推進する。 <p>=チャレンジ目標=</p> <ul style="list-style-type: none"> ○A S J（挨拶・掃除・時間厳守）運動を達成しよう。 ○家庭学習、毎日90分以上をめざそう。

チャレンジ目標を学校評価の評価項目に位置付け、その取組をP-D-C-Aサイクルによって評価することで、改善のポイントがつかみやすくなります。

「本年度の重点課題」に記載します

また、学校関係者評価において、委員の方と児童生徒の状況を話し合う契機ともなり、協力依頼等も行いやすくなります。

校内で検討し、評価領域に設定する必要があると判断できる項目を、学校評価書に記載します

4 自己評価			
評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準
	挨拶をよく交わしていると思う生徒の割合を80%に高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年通信等で隔月ペースで話題として取り上げる。 ・外部アンケートの項目に取り入れ、達成状況を周知する。 	4 3 2 1